

委員会視察記録

委員会名	総務委員会			
期 間	令和6年7月25日～26日			
参加者	委員長	勝俣 昇	副委員長	良知 駿一
	副委員長	伊丹 雅治	委 員	相坂 撰治
	委 員	鈴木 澄美	委 員	江間 治人
	委 員	落合 慎悟	委 員	盛月 寿美
	委 員	四本 康久		
	委 員	塚本 大		
視察先	<ol style="list-style-type: none"> 1 小山町役場（駿東郡小山町） 2 ENボード株式会社（駿東郡小山町） 3 富士モータースポーツフォレスト（駿東郡小山町） 4 御殿場高原時之栖（御殿場市） 5 御殿場市役所（御殿場市） 6 三島市役所（三島市） 7 Distillery Water Dragon（三島市） 8 fete 三島醸造所（三島市） 			

視察の概要

7月25日（木）

■ 小山町役場（会場：豊門公園西洋館）

<概要>

小山町は、町内8地区で県のふじのくにフロンティア推進区域の指定を受け、工業団地や住宅団地の整備、観光交流人口拡大のための施設誘致等の事業を進めている。

湯船原地区では、再生可能エネルギーを活用した産業拠点整備事業を推進しており、広大な敷地にアグリーндаストリーエリア、新産業集積エリア、エネルギー開発関連エリア、林業エリアなど複数のエリアがある。2021年2月に完売した県企業局造成の富士山麓フロンティアパーク小山は、この地区の食品加工生産エリアとして現在7企業が操業中である。

小山PA周辺地区では、スマートICを活用した地域産業集積事業としてトヨタ自動車、富士スピードウェイ、トヨタ不動産、小山町が協力して富士モータースポーツフォレストプロジェクトを推進している。

計画の具体化と事業の円滑化のため、副町長をリーダーとする庁内プロジェクトチームで関係各課が横断的な意見交換を行い、また副町長を会長に地元自治会、金融機関、進出企業等と行政（国・県・町）で構成する小山町ふじのくにのフロンティアを拓く取組推進協議会で推進計画の協議や情報共有を行っている。地元金融機関とは人事交流も行っている。

<主な質疑応答>



Q 企業誘致に当たっては、町と地元金融機関との連携も非常に大切になるが、信用金庫と小山町との人事交流の効果やメリットをどう感じているか。

A 小山町に移住者、定住者が増えると信用金庫には住宅ローンなどの取引が増える可能性が高まるといったメリットがある。また進出企業は地元で協力企業を探す場合も多く、信用金庫がビジネスマッチングを支援することにより、古くからの顧客である町内企業の事業拡大にも貢献できる。

■ ENボード株式会社

<概要>

ENボード株式会社は、パーティクルボード（住宅の下地材や内装材、耐力壁、オフィス家具などに使用される木質ボード）の製造会社であり、国内輸送において利便性の高い小山町のふじのくにフロンティア推進区域内にアジア最大級、国内最大・最新のプラントを建設した。敷地面積は92,883平方メートル。建築廃材等を再資源化、有効活用して高品質なパーティクルボードを安定的に生産・供給することで、CO₂の排出を削減し循環型社会の構築に貢献している。地元の中学校等の環境教育にも協力している。



<主な質疑応答>

Q 災害被災木も原料になり得るか。

A 原料になる。流木も原料にできる。

Q 雇用の状況は。

A 従業員160名のうち、親会社等からの出向者が20名、それ以外の140名はすべて現地で採用している。今年度の新卒採用5名のうち3名は小山町出身者、うち2名は障害者雇用である。

■ 富士モータースポーツフォレスト ウェルカムセンター

<概要>

ふじのくにフロンティア推進区域内にある富士モータースポーツフォレストは、富士スピードウェイ、富士スピードウェイホテル、富士モータースポーツミュージアム、トヨタ交通安全センターモビリティ等の施設で構成されている。

同ウェルカムセンターでは、高い制御性能が要求されるモータースポーツが車の性能をきたえてきた歴史を展示等により紹介し、モビリティとモータースポーツの魅力を発信している。

富士スピードウェイは、レースがない日は会員（約7,000人）が自由に走れる。またビジターが自分の車で体験走行できる日や時間も設定されている。



<主な質疑応答>

Q 関係人口を増やすための取組は。

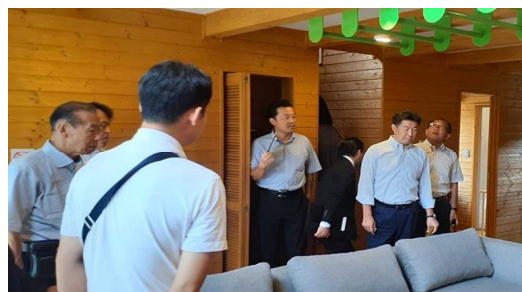
A 子連れファミリーをターゲットにした割引チケットやイベント企画を展開し、モータースポーツのファン層を拡大することにより関係人口を増やしていきたい。

7月26日（金）

■ 御殿場高原時之栖

<概要>

御殿場高原時之栖は、総合レジャー施設として個人、企業、地域、施設の四方よしのプラットフォームでありたいと、イノベーション創出型企業ワーケーションに取り組んでいる。時之栖が考えるワーケーションとはワーク×バケーション、コミュニケーション、イノベーション、インスピレーション、コラボレーションなど「ワーク」と様々な「ケーション」を組み合わせたもの。



JTBや御殿場市と一緒にモニターツアーを実施した際には、東京から御殿場までの移動時間を高付加価値化する仕掛けとして、乗車しながらeスポーツで時之栖を疑似体験できる特別仕様車を用意した。また、時之栖独自のワーケーションモニターツアーには60社188名が参加し、たき火を囲みながら各企業や自治体が取組を持ち寄り、連携の模索や交流を行った。

<主な質疑応答>

Q 関係人口の拡大を推進する上での行政の役割とは。

A ワケーションに興味を持つ企業の多くは、自治体とつながることを求めている。御殿場市にはそういった意味で強く関わっていただいている。

行政には費用面のサポートやプロモーションなどについて協力をお願いしたい。

■ 御殿場市役所

<概要>

御殿場市では、令和4年度に裾野市及び小山町と共に富士山東麓エコガーデンシティ地域循環共生圏を形成した。脱炭素社会の形成とSDGsの実現に向けて、デジタル技術を活用し地域の魅力を最大限引き出す多様性・強靱性のある持続可能な地域づくりとして、ふじのくにフロンティア地域循環共生圏第1号に認定されている。



財産区がもともと行っている森林経営からJ-クレジットを創出する手続きを市が行い、その売却益の10%を財産区、10%を市森林組合、残り80%を市に配分する。JクレジットはCO₂が1トン当たり概ね1万円程度で取引されており、控えめに考えても御殿場市には今後8年間で約3000万円の歳入がもたらされる見込みである。

これをデジタル地域通貨「富士山Gコイン」（利用者約5万人、利用可能店

370店、流通量約20億円)のポイント財源に充当し、エコカー購入補助金や結婚・出生祝い、消防団員報酬等により市民に還元して市内経済に流通させ、脱炭素と経済の好循環を生み出していく。

今後は富士山麓地域全体からこの取り組みを世界に発信していきたい。

また、関係人口及び移住・定住人口の増加を図る狙いで保育園留学にも取り組んでいる。地域の保育園に子供が通い、親はリモートワークする家族での移住体験で、令和5年度の受入れ実績は19家族、令和6年度の受入れ目標は30家族である。

<主な質疑応答>

Q Jクレジット創出の取り組みの広域化について、進捗状況と県の関わりは。

A 関係自治体でまずは共同宣言のようなものができればと個別に調整している。8月には事務レベルの会議が開催できる見通しで、年内の実現が目標。地域循環共生圏の取り組みとも方向性が合致しているため、関係自治体への声かけなどで協力を頂いている。

■ 三島市役所

<概要>

三島市と沼津市は、昨年度、静岡クラフトビール協同組合と東駿河湾クラフトビール地域循環共生圏推進協議会を立ち上げ、モルトかすの再利用やクラフトビールをワーケーションに活用する事業でふじのくにフロンティア地域循環共生圏の認定を目指している。



9年前12カ所だった本県のビール醸造所数は、現在全国第5位の34カ所(うち23カ所は水源豊富な東部地域に所在)で、日本酒の蔵の数27カ所よりも多くなっている。近年は、街づくりの一環として不動産会社や建設会社もクラフトビールの醸造事業に参入している。

静岡クラフトビール協同組合は令和3年5月に発足し、公的機関との連携や協同事業の実施、イベントの開催などの活動を行っている。

副理事長の伏見氏は、協同組合設立以前から「静岡クラフトビアマップ」の制作やビアツーリズムの誘致、フレーバービールへの地元産の果物や野菜の活用に取り組んできた。現在、ビールの主原料であるホップの栽培にも県内の畑で挑戦している。

製造工程で大量に出るモルトかすを創造的に再利用する取組を、行政と協同組合が連携して今後本格的に進めていきたい。

■ Distillery Water Dragon

<概要>

昨年から三島の街中で、国内では希少なバーボンスタイルウイスキーの製造を始めた。蒸留やたる詰めは蒸留所で行うが、スペースが必要な貯蔵(熟成)は街の皆さんにお願いし、住宅展示場のガレージや会社の倉庫など三島の至るところにたるを置かせていただいている。

完成後のウイスキーは原則三島に来ないと買えないこととするが、トークン発行型ファンディングを行っており1,000トークン以上の保有者はECサイトで購入できたり、トークン所有数が増えるほど製造やブランディングプロセス等に参加できるなどの特典が充実する。トークンは発行するオーナー



とプロジェクトのサポーターをつなぐデジタル上のアイテムで、トークン所有者はデジタル株主のようなものと考えられる。トークンの価値は変動し、長く多く保有する人が増えるほど価値は上がっていく。ウイスキーは時間をかけてつくられ、熟成の時間とともに価値が高まるため、トークンの仕組みと相性がよい。この「三島ウイスキープロジェクト」は関係人口創出・拡大を目指す取り組みとして内閣府のモデル事業にも採択された。

<主な質疑応答>

Q 1トークンいくらか。

A 1トークン10円で発行したが、7月26日現在で約65円である。ウイスキーがまだ完成していないにもかかわらず期待値だけでここまで価値が上がっている。

ウイスキーは急な増産はできず決まった本数しか販売できないため、欲しい人が増えれば転売などでどんどん価格が上がる。私たちの街づくり、ウイスキーづくりを応援してくださり、また完成した折には定価で確実に手に入れたい方々が1,000トークン以上を保有している状況である。

■ fête 三島醸造所

<概要>

レストラン併設のクラフトビール醸造所。副原料として地元食材を効果的に使用し、料理に合うすっきりとした味わいと複雑な香りの特徴とするクラフトビールを製造している。3人の女性が中心となって企画、醸造、デザインを行い、繊細な味わいや世界観を表現している。



地元農家やJAと連携し、廃棄されそうな農産物を原料として使用したり、モルトかすを堆肥として再利用していただくなど環境への取組も行っている。ビール瓶のラベル貼りは就労支援施設へ依頼し福祉との連携も模索している。地元の大小さまざまなイベントに参加して地域を盛り上げる活動にも積極的に取り組んでいる。すべての商品を地元とつながりのあるものにしたい、生産者の思いやストーリーを届けられる醸造所やレストランでありたいと考え活動している。

<主な質疑応答>

Q クラフトビールの醸造所が集積していることは東部地域の強みである一方、数が多いことで競争もあると思うが。

A マイクロブルワリーが多いので商圏がかぶることは少なく、むしろ観光

地としてプラスの面が多いのではないか。いろいろな種類のクラフトビールやDistillery Water Dragonのクラフトジンなどを飲み歩きたいお客様も多く、たくさんのお店のお酒を楽しめるよう、飲む量は少なめをおすすめし、お互い他店の情報を紹介し合っている。